

第 19 回災害廃棄物対策四国ブロック協議会 議事録

日 時：令和 5 年 2 月 22 日（火）13 時 30 分～15 時 45 分

場 所：高松センタービル 501 号室

オンライン会議システム併用

議 事：

- (1) 令和 4 年度の協議会調査検討事項の報告
- (2) 令和 4 年度災害廃棄物処理対策セミナーの報告
- (3) 次年度以降の四国ブロック協議会での取組に係る課題について

報告事項：

令和 4 年度の各種業務の報告

1 開会

環境省 中国四国地方環境事務所 資源循環課 横山課長より開会の挨拶が行われた。

2 あいさつ

3 議 事

(副座長)

議事(1)「令和 4 年度の協議会調査検討事項の報告」について、事務局より説明をお願いします。

(1) 令和 4 年度の協議会調査検討事項の報告

「(1) 令和 4 年度の協議会調査検討事項の報告」について、事務局より資料 1、資料 2 の説明が行われた。説明の後、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 MURC)

(資料 1、資料 2 説明・省略)

(副座長)

ただいまの説明について、質問や意見があればお願いします。

(委員)

資料 2 の産業廃棄物処理業者、再生利用可能事業者へのアンケート調査結果によると、産業廃棄物処理業者の受入協力可能性も 75%、資機材・仮置場の提供の協力可能

性は58%、再生利用可能事業者の受入協力可能性が55%と非常に高い数字だと思う。一方、受入可能量は発災しないと分からないという、以前の調査と同様の回答が多かったことは残念である。受入可能量の情報があれば、災害初期の段階で、広域処理が必要かどうかの判断材料となる情報が得られると考えていたがそれはできないということである。しかし確度はやや落ちるかもしれないが、受入可能量を想定することで全くできないことはないと思う。以上、感想である。

次年度に向けた課題として、4点ほど挙げられている。現状、発災時に産廃事業者や再生利用事業者への協力要請を誰がどのようなルートで行うかが明確になっていないので、この点も今後の課題としてあると考える。

(副座長)

第1章の産廃事業者、再生利用事業に対し行ったヒアリング調査では、処理可能量については回答しづらかったようである。ただ、3章の各県の産業資源循環協会、産業廃棄物協会を対象とした調査によると、人員、資機材の保有状況は把握されている。災害が起きた際は、そのルートを使えばある程度早めに判断ができるかもしれないので、そちらの動きに期待したい。

隣接ブロック間連携については、地方環境事務所間で定期的に情報交換されていると思うので、連携について具体的に協議する機会を持っていただけるとありがたい。本来、支援・受援という双方向の関係性があることで初めて連携が成り立つ。中国ブロックとは近いので、ある程度可能だろうが、近畿や九州とは難しい。支援には「人」と「資機材」と「処理」の3つがある。「人」は全国どの地域とも双方向（応援・受援）が可能だが、「資機材」や「処理」という物が動くことは一方向で、支援は受けても、四国側から支援するというイメージがない。その点を考慮した上で、ブロック間連携を考える必要がある。

(事務局 環境省)

副座長からは環境事務所間の連携やブロックの特性に応じた考え方の整理をご指摘いただいた。広域連携の考え方については、次年度以降、地域特性に応じた支援受援の方向性を加味したい。

委員からのご指摘は次年度以降、広域処理に関する情報整理の参考にさせていただきたい。

(委員)

今回のリサイクル事業者へのヒアリング結果は有効だと思う。仮置場に置かれた廃棄物は、受入先の状況によっては長く滞留するものもある。地域全体の受入量を多めに見積もるとか、場合によっては二次仮置場のような機能を持たせることも考えられ

る。受入先の状況を踏まえて仮置場の広さや設置場所を検討してほしい。

(副座長)

四国ブロック行動計画説明会、図上訓練の実施についてご意見等はないか。香川県、高松市は図上訓練の幹事だった。幹事自治体としてコメントがあればお願いしたい。

(香川県)

応援要請などの情報伝達については、相手が見えた方がよいので、定期的な訓練が必要である。どのような人が何をやっているかを日頃から把握しておいて、気軽に連絡を取り合うような関係を作っておくことが重要だと感じた。

(高松市)

訓練の実施は、災害に備え、各自の意識を高める意味で重要である。各自治体が顔を合わせ、関係性を構築する貴重な機会となった。ただ、シミュレーションの下で自治体間連携ができて、各自治体の処分場や仮置場にかかる実態は訓練とは相当かけ離れていると思う。

高松市は平成 16 年に高潮で被災したが、その時の経験をより生かすことができるよう、内省の機会にもなったと思っている。

(委員)

訓練で問題点を洗い出すことはよいことだ。災害は地域ごとに被害レベルが異なる。状況によっては、ある自治体と連絡が取れないこともあり得るので、その際はどうかをあらかじめ検討しておく必要がある。

(副座長)

私は 2 日とも訓練に参加した。シナリオは過去より継続して実施してきていることもあり、実によく練られていた。一方で、毎年同様の訓練をするとマンネリ化して効果が薄れてくる。委員のご指摘等を踏まえ、今後もアレンジしながら継続していければよいと思っている。

(事務局 環境省)

コロナ禍となり在庁型訓練も増えており、毎年度、情報伝達訓練を中心に実施している。幹事自治体の負担軽減も考えていきたい。頂いたご意見を踏まえ、訓練内容については適切なアレンジを加えていきたいと考えている。

(2) 令和 4 年度災害廃棄物処理対策セミナーの報告

「(2) 令和 4 年度災害廃棄物処理対策セミナーの報告」について、事務局より資料

3の説明が行われた。説明の後、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 MURC)

(資料3説明・省略)

(副座長)

ただいまの説明について、質問や意見があればお願いします。

～意見なし～

特に意見がないようなので、次の議事に移る。

(3) 次年度以降の四国ブロック協議会での取組に係る課題について

「(3) 次年度以降の四国ブロック協議会での取組に係る課題」について、事務局より資料4の説明が行われた。説明の後、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 環境省)

(資料4説明・省略)

(副座長)

ただいまの説明について、質問や意見があればお願いします。

(阿南市)

資料2で詳しく触れていただいたが、民間事業者や産業廃棄物協会などがいざという時には協力いただけるという、市町村の立場としては大変心強い調査結果だったと思う。しかし、実際災害が起きた際、我々はどこに何を頼めばよいのかを来年度以降の検討事項として追加いただきたい。

(高松市)

3. 廃棄物処理施設に関する調査検討についてだが、国や県は各基礎自治体の廃棄物処理量の最大値や傾向等を把握していると思う。基礎自治体で策定している計画の内容は現場と温度差があると思う。例えば、今年度、東かがわ市、さぬき市などで構成する香川県東部清掃施設組合と高松市で災害時における相互応援協定を締結したが、これは広域連携の障害になるのではないだろうか。協定を結んでいる自治体との協議が整わなければ前に進めない。どの市町も施設や計画の課題、市町間連携の制約やハードルがある。逆に課題や制約をメリットとして機能させることも考えられる。災害ごとにきめ細やかな視点で調査をしていただくことで、先ほどの阿南市のご指摘にあったように、困ったときにどこに聞けばよいかという話につながるのではないかと。

(委員)

2. ブロック協議会における訓練内容の検討において、「効果的な訓練実施となるよう、実施形態や参加団体等について工夫する」との方向で検討するということが、参加団体としては、民間事業者を想定しているのか。それとも構成員以外の自治体を想定しているのか。

(事務局 環境省)

どこに何を頼めばよいかという意見については、ルートを明確にすることが非常に重要なポイントだと感じている。民間事業者の情報の取り扱いに注意しつつ、どのような情報共有のあり方が適切かといった観点を踏まえ、次年度以降の検討に含めることができればと思う。

また、廃棄物処理施設を考える際、地域の課題に着目したきめ細やかな調査が必要ではないかというご指摘だった。平時から市町村間でどのような課題があるか、協力関係の把握も重要なので、調査の仕方については工夫したい。

最後に委員からのご質問の訓練参加団体については、現在明確に想定している対象はなく、訓練の内容によって決定したいと考えている。

(副座長)

ありがとうございました。皆さまからいただいたご意見を踏まえ、事務局で報告書をまとめていただく。内容の確認については、座長一任ということでお願いしたい。

(座長)

本日発言のなかったご意見も追加であろうかと思う。それらのご意見を踏まえ、座長一任ということで報告書の取りまとめをさせていただく。どうぞよろしくお願いたします。

(副座長)

ありがとうございます。議事は以上となるので、進行を事務局にお返しする。

4 報告事項

令和4年度の各種業務の報告

「令和4年度の各種業務の報告」について、株式会社東和テクノロジーより資料5-1、事務局より資料5-2、資料5-3の説明が行われた。説明の後、以下の通り意見交換がされた。

(株式会社東和テクノロジー)

(資料5-1説明)

(事務局 MURC)

ただいまの説明について、質問や意見があればお願いします。

～意見なし～

特に意見がないようなので、次の報告に移る。

(事務局 MURC)

(資料5-2説明・省略)

(事務局 MURC)

ただいまの説明について、質問や意見があればお願いします。

(国土交通省 四国地方整備局 防災室)

人材育成のためにも研修を実施することは非常に有意義である。毎年実施しているのか。

(事務局 MURC)

基本的に毎年モデル業務として実施されている。昨年度も弊社が受託して実施した。

(国土交通省 四国地方整備局 防災室)

行政は異動があるので、毎年とはいえ参加者は1から経験するケースが多いだらう。重要な取り組みと認識している。

(事務局 環境省)

人材育成は重要な取り組みである。次年度以降も予算の関係を考慮しつつ、実施を検討したい。

(事務局 MURC)

(資料5-3説明・省略)

(事務局 MURC)

ただいまの説明について、質問や意見があればお願いします。

(徳島県)

宇部市、米子市での仮置場訓練では、単品レーンと混載レーンを分けて実施されたとのことだが、状況について補足いただきたい。

(事務局 MURC)

宇部市、米子市とも単品車両、混載車両を用意して実施した。米子市は、迂回することで渋滞緩和したいとのことだったので、800m程度の迂回路を確保した。受付では、単品か混載かを確認するのだが、反省点としては、1台目の混載車両において、一次受付で混載か単品かを確認して次の二次受付に進めばよいところを、一次受付の段階から全ての廃棄物を細かく確認してしまった。統括者が気づき、2台目からは適切に行った。徳島県で実施したような長い迂回路やショートカットはなかった。宇部市では迂回路を用意したが、候補地内で全てを実施する必要があったため、外から受付には入れない状況だった。

その他 連絡事項

(香川県)

組織改正により、4月から所属部署の名称が廃棄物対策課から循環型社会推進課に変更となる。電話番号、FAX番号は変更しないが、メールアドレスが変更になる可能性があるのご留意いただきたい。HP等で案内はするが、メールが届かない場合はご連絡をいただきたい。

5 閉会

(事務局 MURC)

本日は、お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。

なお、本日のご発言以外に、本協議会に関するご意見等があれば、会議終了後1週間程度を目途に事務局までメール等にてお知らせいただきたい。

以上で、第19回災害廃棄物対策四国ブロック協議会を閉会する。オンライン会議も通信を終了する。

本日は長時間どうもありがとうございました。

以上